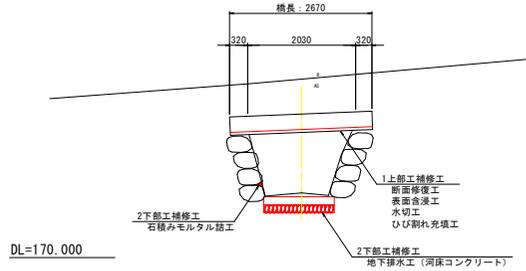


橋梁補修計画一般図

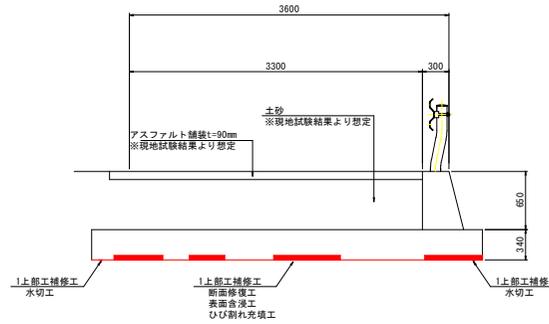
〔第二南道橋〕

補修工程一覧			
補修工程	補修材料	補修箇所	
1上部工補修工	断面修復工	ポリマーセメントモルタル	床版下面
	表面含浸工	ケイ酸塩系表面含浸剤	
	水切工	ゴム製後付水切材	
	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂	
2下部工補修工	石積みモルタル詰工	セメントモルタル	A1・A2
	地下排水工	角形じゃかご 河床コンクリート	上流側呑口部 底板

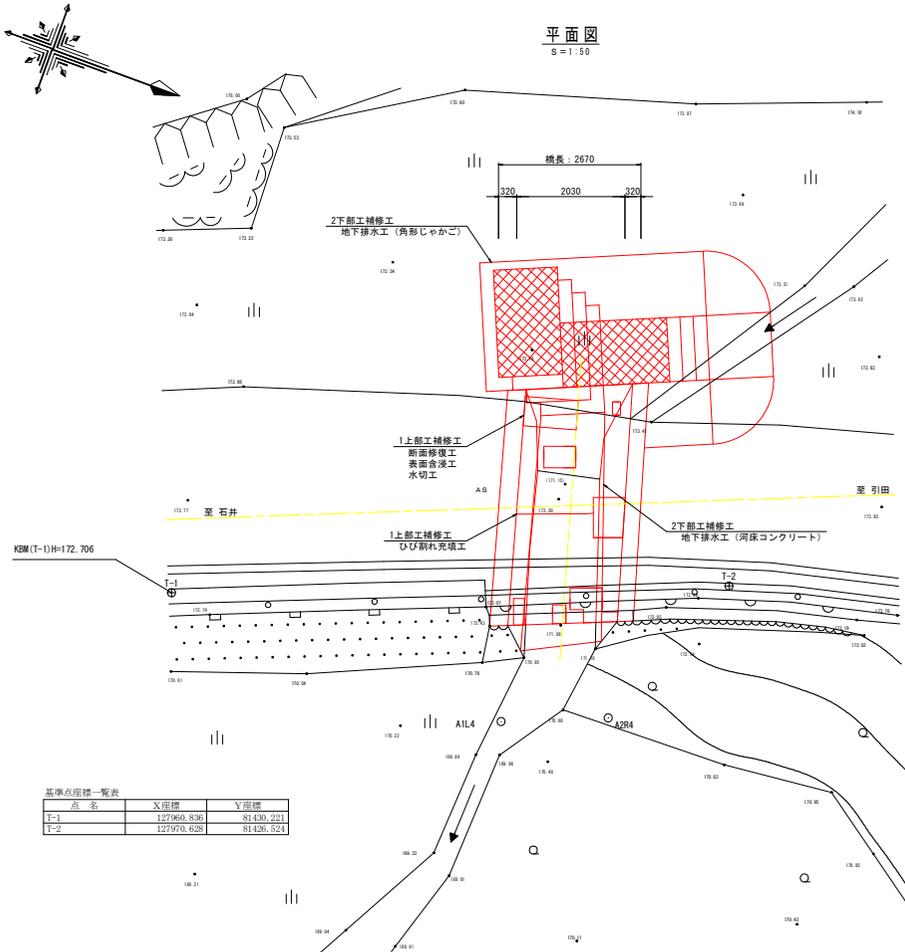
側面図
S=1:50



上流側断面図
S=1:30

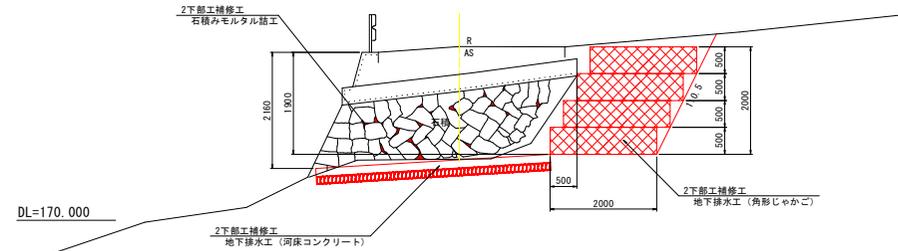


平面図
S=1:50

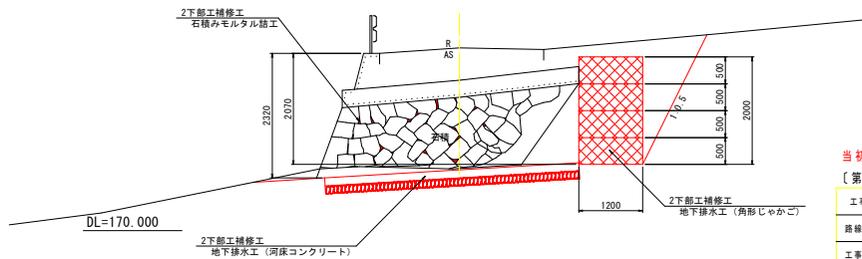


下部工断面図
S=1:50

〔右岸:石井側〕



〔左岸:引田側〕



当初図面

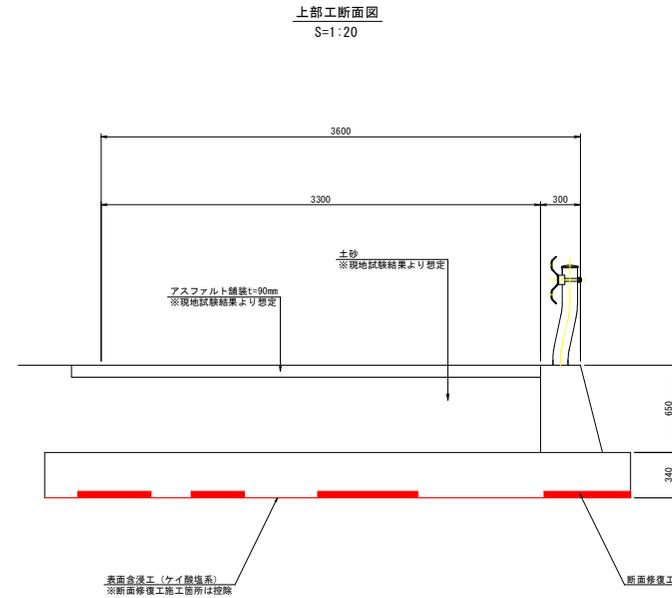
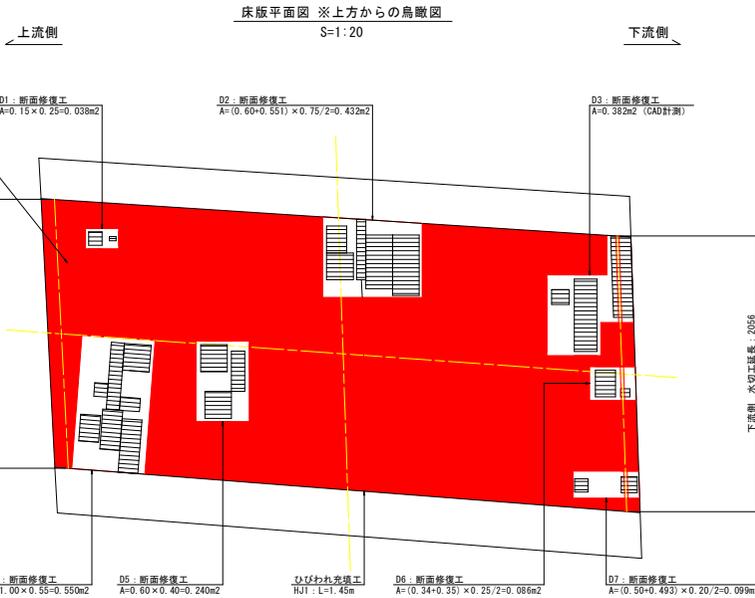
〔第二南道橋〕

工事名	R6百土 石井引田線(第二南道橋) 土版・床版 橋梁補修工事(担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町泉谷(第二南道橋他)		
図面名	橋梁補修計画一般図		
縮尺	図示	図面番号	1 / 11
会社名			
事業者名	徳島県東部農土整備局(吉野川庁舎)		

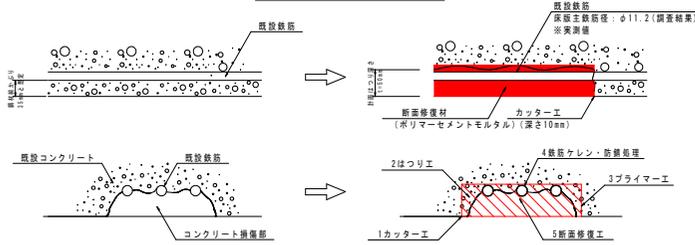
点名	X座標	Y座標
T-1	127960.836	81430.221
T-2	127970.628	81426.521

上部工補修計画図

〔第二南道橋〕

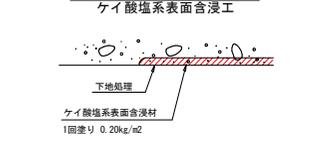


断面修復工 詳細図



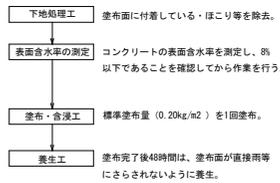
コンクリートははつりエ
注)鉄筋位置において、現地鉄筋腐食が確認された場合は、腐食鉄筋のケレン作業が確実に行える位置までではつりエを行うこと。
※設計数量の算出は、現地調査結果より鉄筋までの縦かぶり35mm程度、主鉄筋径を実測値の11.2と想定して50mmで設定している。

表面含浸工 詳細図



工程	使用材料	標準塗布量	塗布方法
下地処理	-	-	サンダーケレン等
1回塗り	ケイ酸塩系表面含浸材(1液性)	0.20kg/m ²	刷毛 ローラー刷毛

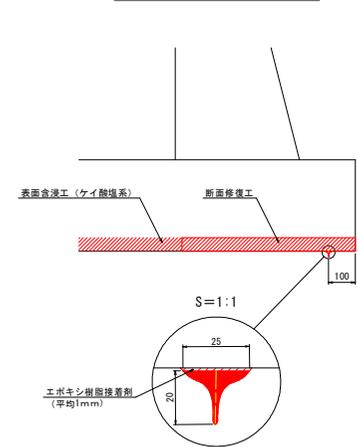
施工フロー



補修数量表-2 (表面含浸工)

補修箇所	補修面積(m ²) ※CAD計測
H 1	7.100
表面含浸工面積: A=7.100m ²	

水切り 詳細図 S=1:10

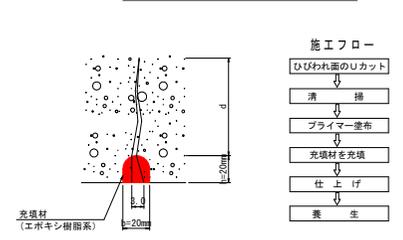


補修数量表-3 (水切り)

補修材料	補修箇所	補修数量	補修数量	
水切り	上流側	L1=2.006m	L=4.062m	
	下流側	L2=2.056m		
	接着剤	上流側	W1=0.069kg	W=0.140kg
		下流側	W2=0.071kg	
合計				

※接着剤数量 1200kg/m³×0.001m×0.025m×1.15×L=0.0345L
※上流側の水切りは上流側の増積土石を撤去後に設置を行うこと
増積土石の撤去は「下部工補修計画図(2)」を参照

ひびわれ充填工 詳細図



補修数量表-4 (ひびわれ充填工)

補修部位	幅(mm)	延長(m)	規格	使用材料区分	標準設計量
HJ 1	3.0	1.45	エポキシ樹脂系	プライマー	0.15kg/m ²
ひびわれ充填工 延長 合計 L=1.45m				ポリマーセメント系	1800kg/m ³
				エポキシ樹脂系	1700kg/m ³

プライマーおよび充填材の標準設計量は上表のとおりとする。

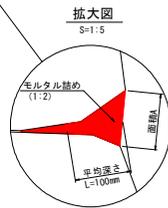
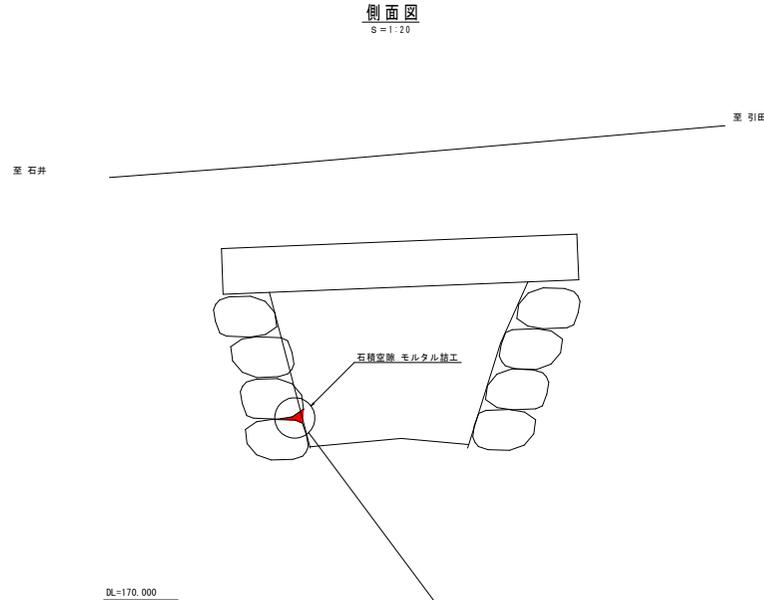
当初図面

〔第二南道橋〕	
工事名	R6百土 石井引田線(第二南道橋) 上板・床板 構造補修工事(担い手確保型)
路線名等	(主)石井引田線
工事箇所	板野郡上板町長谷(第二南道橋他)
図面名	上部工補修計画図
縮尺	図示 図面番号 2 / 11
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局(吉野川庁舎)

【施工手順(断面修復工)】
1. カッターエ
深さ(30mm程度)の切込みを入れる。
2. はつりエ
はつり作業は健全なコンクリートへの影響を避けるため、ピンハママキ等により確実に作業を行い、作業後には周辺部に浮きが生じていないことを確認する。
はつり範囲は原則として「計画図」に示す範囲とするが、劣化部が増加された場合は、状況に応じて範囲を広げる。
3. 鉄筋ケレン・防腐処理
ワイヤブラシ等を用いて鉄筋表面の錆を落とす。
4. 鉄筋防腐処理工
錆落としを行った鉄筋表面に刷毛を用いて鉄筋防錆材を塗布する。
5. 断面修復工(左官工法)
ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初形状に戻す。
※使用材料は監理員に確認の上決定する。
※1層あたりの施工厚さはモルタルの付着性、材料特性を考慮して設定する。(標準施工厚さ: 20~30mm)
※鉄筋の腐食に留意を怠らないよう注意する。
※修復後の鉄筋残りが少ない場合は、内側に折曲げて耐力を確保する。

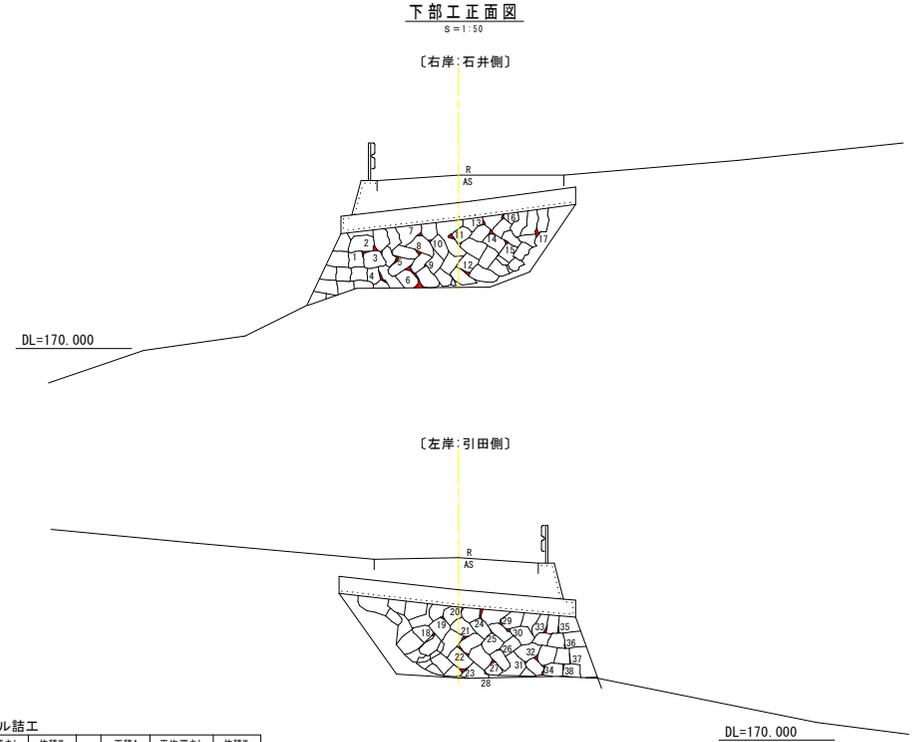
下部工補修計画図 (1)

[第二南道橋]



石積空隙-モルタル詰工

	面積A	平均深さL	体積W		面積A	平均深さL	体積W	
	(m ²)	(m)	(m ³)		(m ²)	(m)	(m ³)	
1	0.004	0.100	0.0004	20	0.001	0.100	0.0001	
2	0.005	0.100	0.0005	21	0.004	0.100	0.0004	
3	0.001	0.100	0.0001	22	0.006	0.100	0.0006	
4	0.007	0.100	0.0007	23	0.006	0.100	0.0006	
5	0.006	0.100	0.0006	24	0.007	0.100	0.0007	
6	0.024	0.100	0.0024	25	0.001	0.100	0.0001	
7	0.003	0.100	0.0003	26	0.001	0.100	0.0001	
8	0.005	0.100	0.0005	27	0.003	0.100	0.0003	
9	0.001	0.100	0.0001	28	0.001	0.100	0.0001	
10	0.002	0.100	0.0002	29	0.002	0.100	0.0002	
11	0.006	0.100	0.0006	30	0.003	0.100	0.0003	
12	0.005	0.100	0.0005	31	0.001	0.100	0.0001	
13	0.003	0.100	0.0003	32	0.004	0.100	0.0004	
14	0.005	0.100	0.0005	33	0.003	0.100	0.0003	
15	0.003	0.100	0.0003	34	0.003	0.100	0.0003	
16	0.002	0.100	0.0002	35	0.002	0.100	0.0002	
17	0.007	0.100	0.0007	36	0.001	0.100	0.0001	
18	0.002	0.100	0.0002	37	0.002	0.100	0.0002	
19	0.002	0.100	0.0002	38	0.001	0.100	0.0001	
			小計				0.0052	
							合計	0.0145
							合計 (口ス率50%程度考慮)	0.0200



当初図面

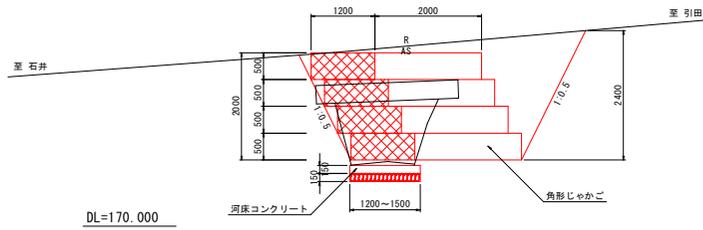
[第二南道橋]

工事名	R6百土 石井引田線(第二南道橋他) 土版・炭谷 橋梁補修工事(担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町炭谷(第二南道橋他)		
図面名	下部工補修計画図(1)		
縮尺	図示	図面番号	3 / 11
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局(吉野川庁舎)		

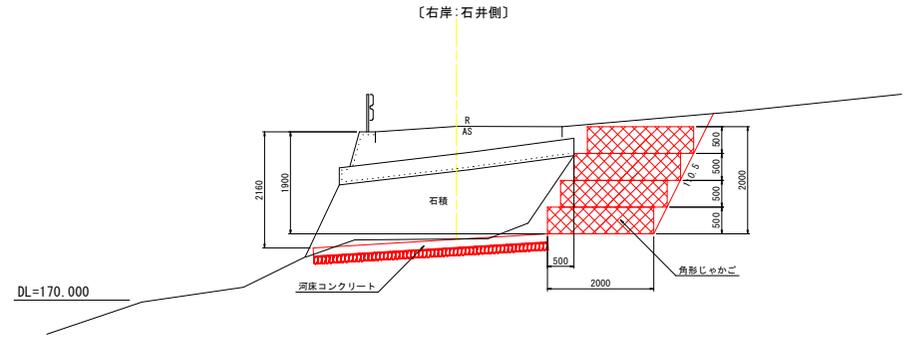
下部工補修計画図 (2)

[第二南道橋]

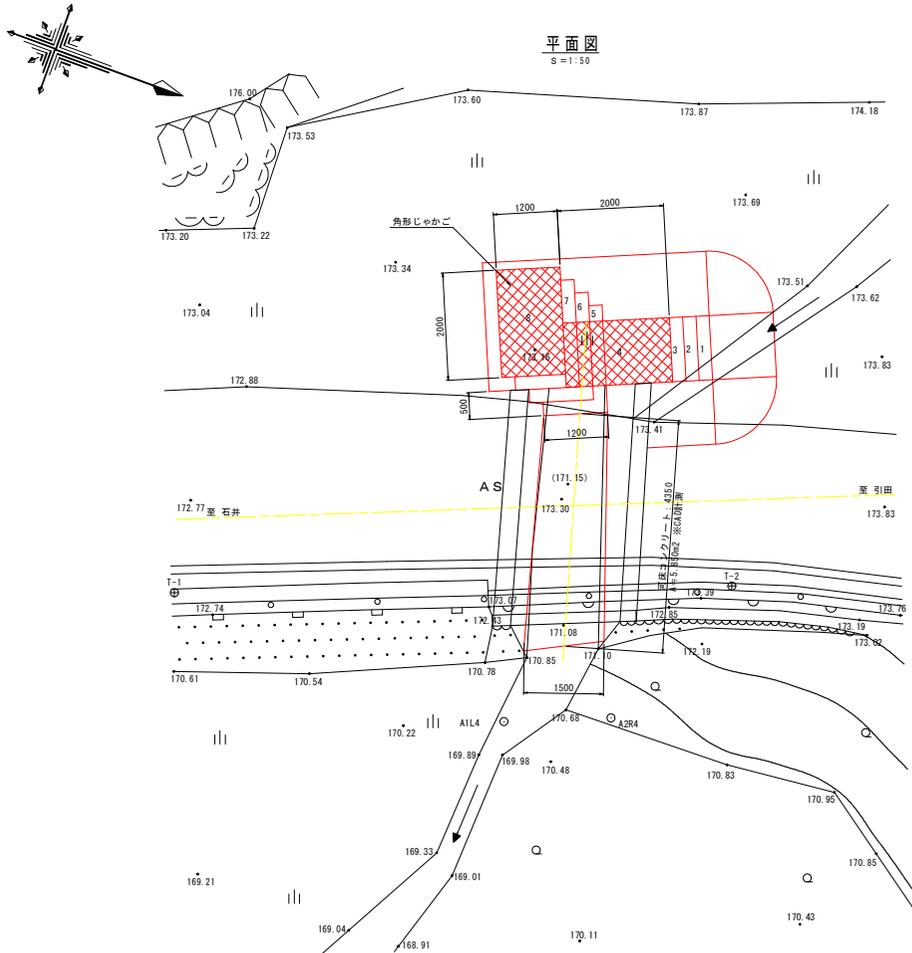
側面図
S=1:50



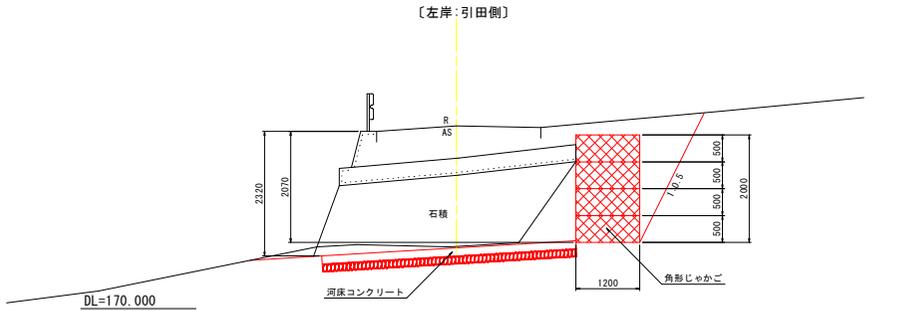
河川縦断面図
S=1:50



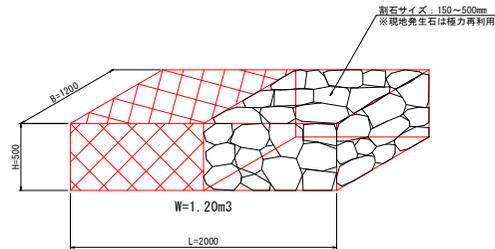
平面図
S=1:50



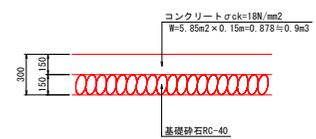
河川縦断面図
S=1:50



角形じゃかご (パネルタイプ)
(H500 × B1200 × L2000)
(網目150-線径4-巻鉛メッキ仕様)



河床コンクリート 詳細図



当初図面

[第二南道橋]

工事名	R6百土 石井引田線 (第二南道橋他) 土版・炭谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町炭谷 (第二南道橋他)		
図面名	下部工補修計画図 (2)		
縮尺	図示	図面番号	4 / 11
会社名			
事業者名	徳島県実業士整備局 (吉野川庁舎)		

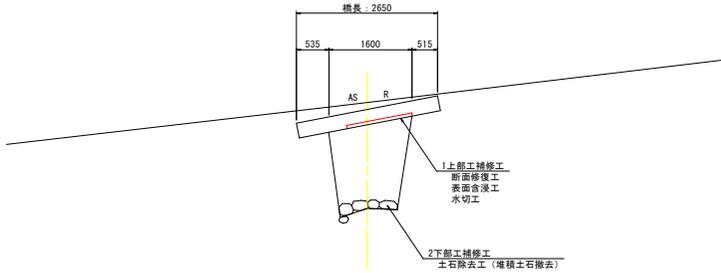
橋梁補修計画一般図

〔第二天狗橋〕

補修工程一覧

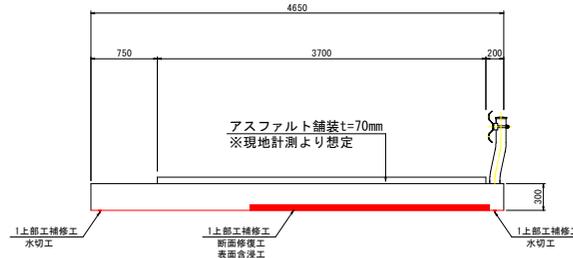
補修工程		補修材料	補修箇所
1上部工補修工	断面修復工	ポリマーセメントモルタル	床版下面
	表面含浸工	ケイ酸塩系表面含浸剤	
	水切工	ゴム製後付水切材	
2下部工補修工	土石除去工	堆積土石撤去	河床
		角形じゃこ	上流側

側面図
S=1:50

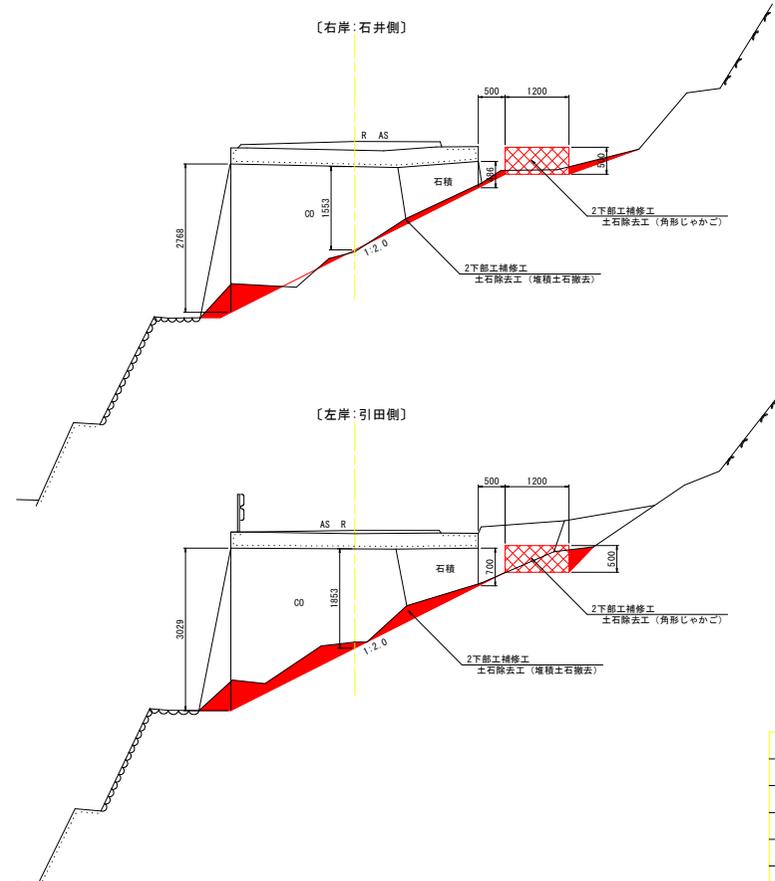


DL=230.000

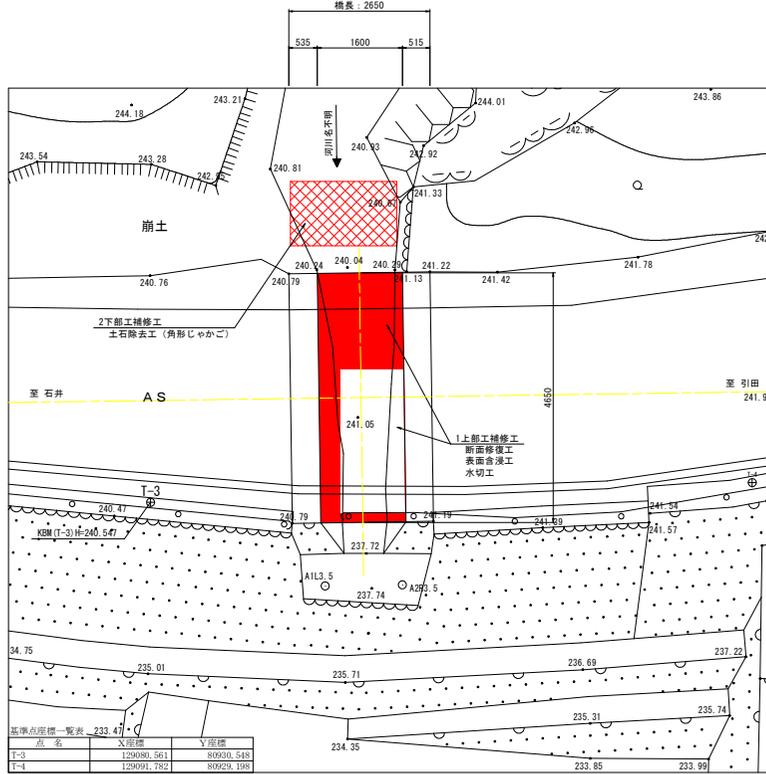
上部工断面図
S=1:30



下部工断面図
S=1:50



平面図
S=1:50



基準点座標一覧表	232.47	
点名	X座標	Y座標
T-3	129080.561	80930.548
T-1	129091.782	80929.198

当初図面

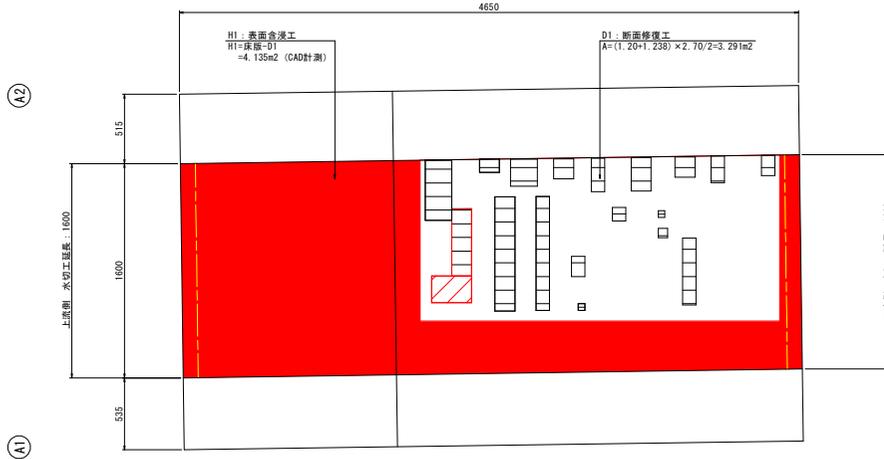
〔第二天狗橋〕

工事名	R6百土 石井引田線 (第二天狗橋) 土版・梁谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)
路線名等	(主) 石井引田線
工事箇所	板野郡上板町梁谷 (第二天狗橋)
図面名	橋梁補修計画一般図
縮尺	図示 図面番号 5 / 11
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局 (吉野川庁舎)

上部工補修計画図

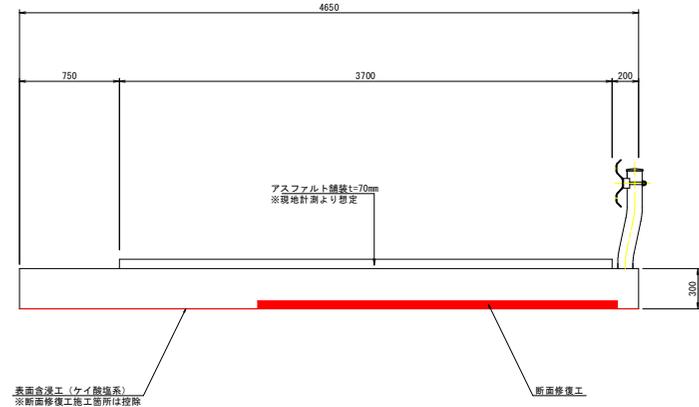
[第二天狗橋]

床版平面図 ※上方からの鳥瞰図
S=1:20

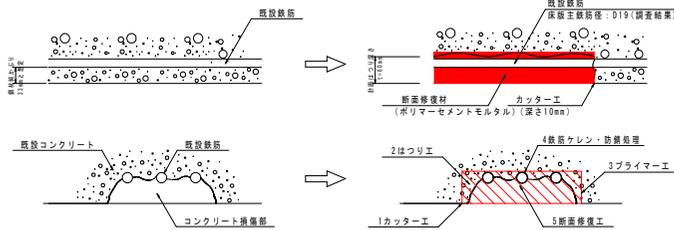


下流側

上部工断面図
S=1:20

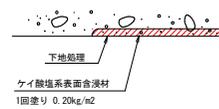


断面修復工 詳細図



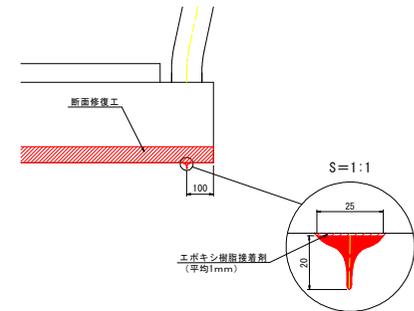
コンクリートはつり工
注) 鉄筋位置において内部鉄筋腐食が確認された場合は、腐食鉄筋のケレン作業が確実に行える位置まではつりを行うこと。
※設計数量の算出は、現地調査結果より鉄筋までの純かぶり33mm程度、主鉄筋径をD19と想定して60mmで設定している。

表面含浸工 詳細図
ケイ酸塩系表面含浸工

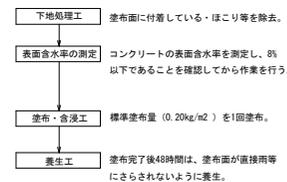


工程	使用材料	標準塗布量	塗布方法
下地処理	-	-	サンダーケレン等
1回塗り	ケイ酸塩系表面含浸材 (1液性)	0.20kg/m ²	刷毛 ローラー刷毛

水切工 詳細図 S=1:10



施工フロー



補修数量表-2 (表面含浸工)

床版	
補修箇所	補修数量 (m ²) ※CAD計測
H 1	4.135
表面含浸工面積 : A=4.135m ²	

補修数量表-1 (断面修復工)

上部工 (床版下面)		
補修箇所	補修箇所形状 (m)	補修数量 (m ²)
D 1	(1.20+1.238) × 2.70/2	3.291
断面修復工面積 A=3.291m ²		
断面修復工体積 W= 0.197m ³		
※断面修復厚60mmと設定		

補修数量表-3 (水切工)

補修材料	補修箇所	補修数量	補修数量	
			合計	
水切工	上流側	L1=1.600m	L=3.200m	
	下流側	L2=1.600m		
接着剤	上流側	W1=0.055kg	W=0.110kg	
	下流側	W2=0.055kg		

※接着剤数量 : 1200kg/m³ × 0.001m × 0.025m × 1.15 × L = 0.0345L

当初図面

[第二天狗橋]

工事名	R 6百土 石井引田線 (第二天狗橋) 上板・炭谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)
路線名等	(主) 石井引田線
工事箇所	板野郡上板町炭谷 (第二天狗橋)
図面名	上部工補修計画図
縮尺	図示 図面番号 6 / 11
会社名	
事業者名	徳島県東部県土整備局 (吉野川庁舎)

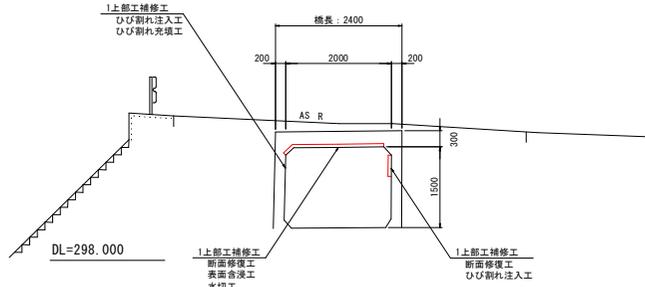
橋梁補修計画一般図

〔第一中津尾橋〕

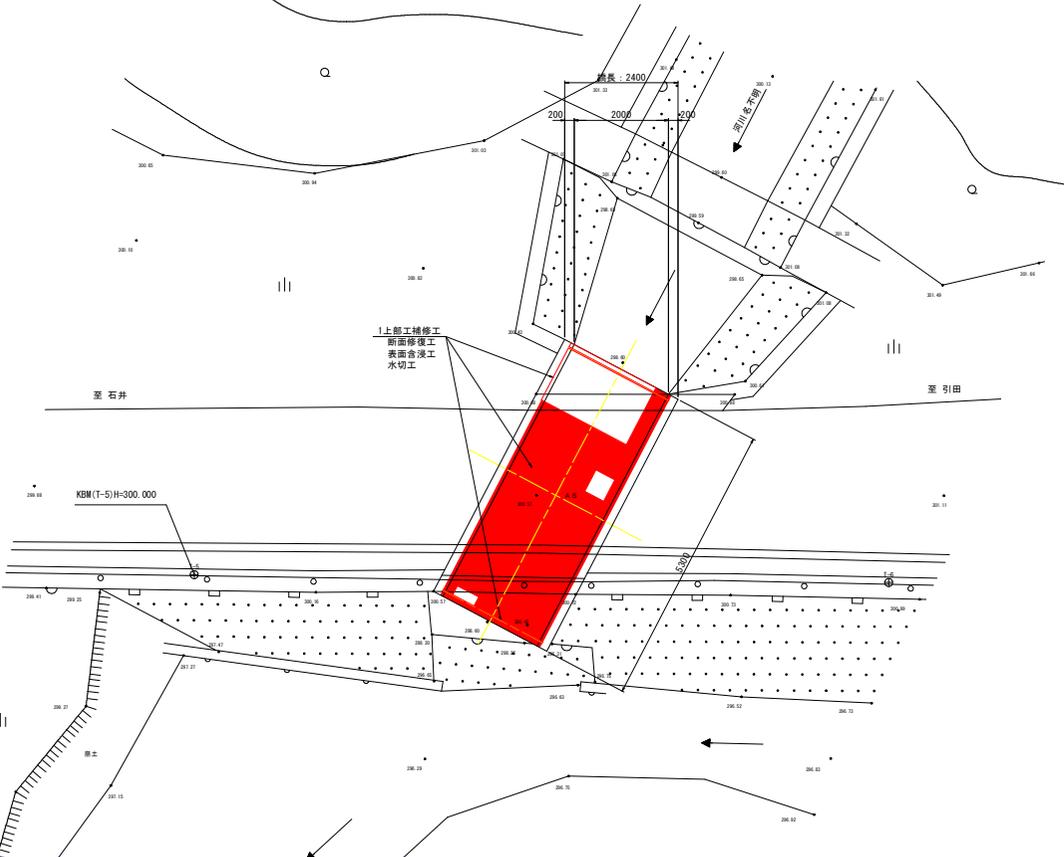
補修工程一覧

補修工程		補修材料	補修箇所
1上部工補修工	断面修復工	ポリマーセメントモルタル	頂版・側壁・側面
	表面含浸工	ケイ酸塩系表面含浸剤	頂版
	水切工	ゴム製後付水切材	
	ひび割れ注入工	エポキシ樹脂	側壁
	ひび割れ充填工	エポキシ樹脂	側壁・側面

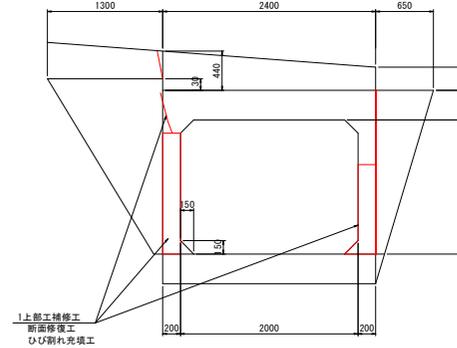
側面図
S=1:50



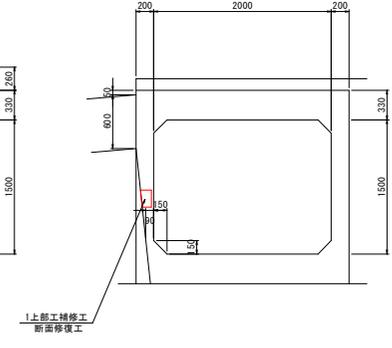
平面図
S=1:50



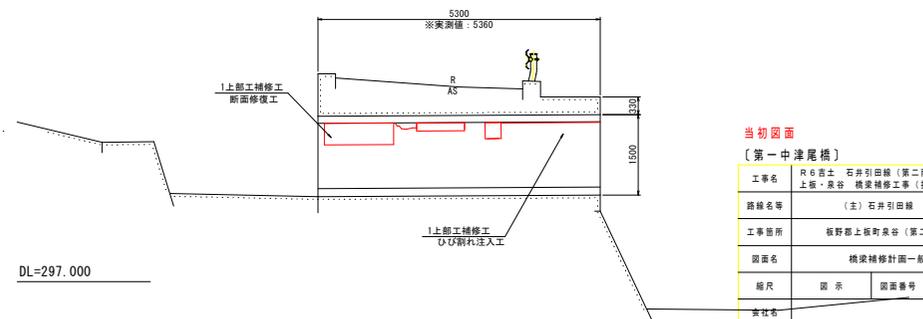
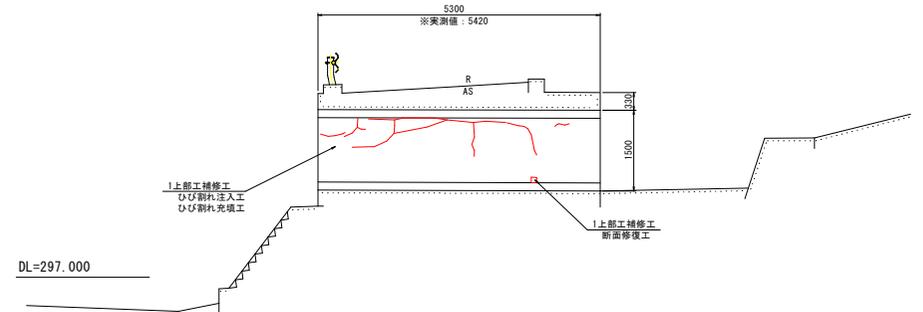
上流側断面図
S=1:30



下流側断面図
S=1:30



側壁断面図
S=1:50



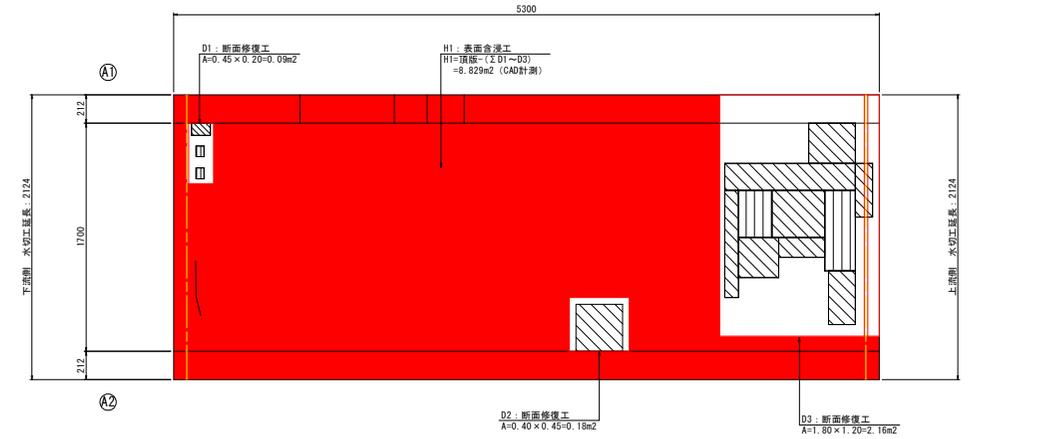
当初図面 〔第一中津尾橋〕

工事名	R6百土 石井引田線 (第二南運機他) 上板・炭谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町炭谷 (第二南運機他)		
図面名	橋梁補修計画一般図		
縮尺	図示	図面番号	8 / 11
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (吉野川庁舎)		

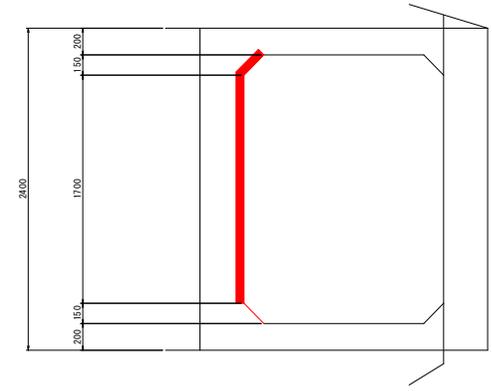
上部工補修計画図 (1)

[第一中津尾橋]

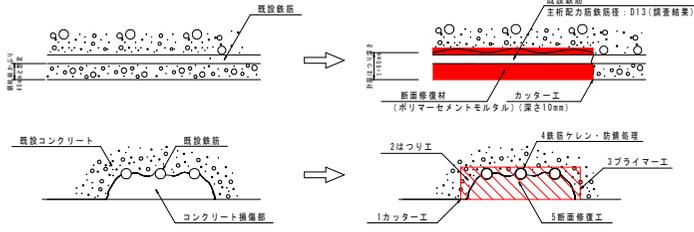
頂版平面図 ※上方からの鳥瞰図 S=1:20



上流側断面図 S=1:20

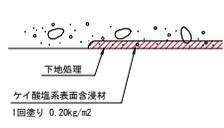


断面修復工 詳細図



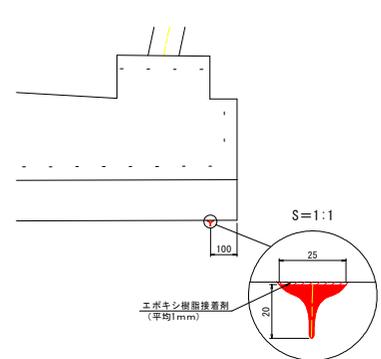
コンクリートはつり工
注) 鉄筋位置において内部鉄筋腐食が確認された場合は、腐食鉄筋のケレン作業が確実に行える位置まではつりを行うこと。
※鉄筋数量の算出は、鉄筋までの締めぶり40mm程度、配筋筋径をφ13と想定して60mmで設定している。

表面含浸工 詳細図
ケイ酸塩系表面含浸工



工程	使用材料	標準塗布量	塗装方法
下地処理	-	-	サンダーケレン等
1回塗り	ケイ酸塩系表面含浸材 (1液性)	0.20kg/m2	刷毛 ローラー刷毛

水切工 詳細図 S=1:10



補修数量表-3 (水切工)

補修材料	補修箇所	補修数量	
		補修数量	合計
水切工	下流側	L1=2.124m	L=4.248m
	上流側	L2=2.124m	
接着剤	下流側	W1=0.073kg	W=0.146kg
	上流側	W2=0.073kg	

※接着剤数量: 1200kg/m3 × 0.001m × 0.025m × 1.15 × L = 0.0345 L

当初断面
[第一中津尾橋]

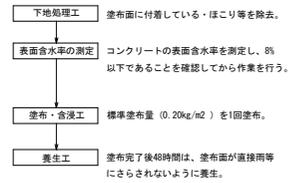
工事名	R6百土 石井引田線 (第二南運橋他) 上板・床谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町床谷 (第二南運橋他)		
図面名	上部工補修計画図 (1)		
縮尺	図示	図面番号	9 / 11
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (吉野川庁舎)		

補修数量表-1 (断面修復工)

上部工 (頂版)		
補修箇所	補修断面形状 (m)	補修断面積 (m2)
D 1	0.45 × 0.20	0.090
D 2	0.40 × 0.45	0.180
D 3	1.80 × 1.20	2.160
断面修復工面積		A=2.430m2
断面修復工体積		W= 0.146m3

※断面修復厚60mmと設定

施工フロー



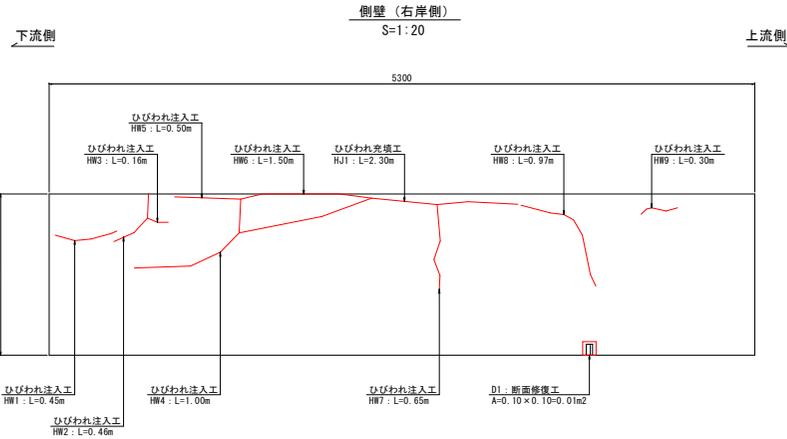
補修数量表-2 (表面含浸工)

頂版	
補修箇所	補修断面積 (m2)
H 1	8.829
表面含浸工面積: A=8.829m2	

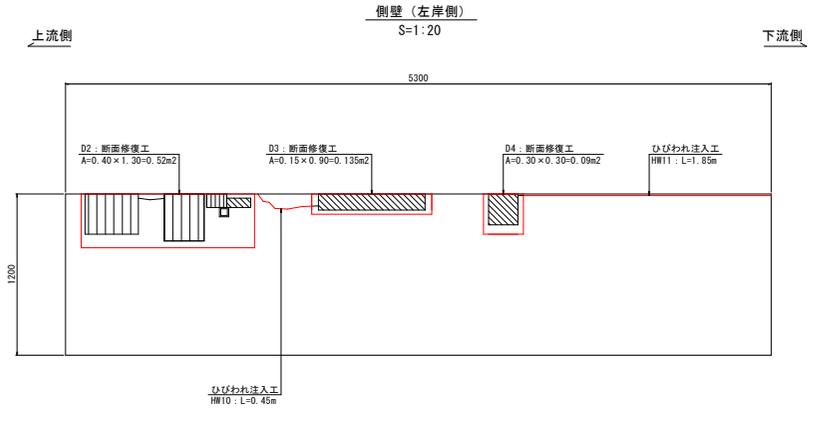
【施工手順 (断面修復工)】
1. カッター工
深さ10mm程度の切込みを入れる。
2. はつり工
はつり作業は健全なコンクリートへの影響を避けるため、ピックハンマー等により慎重に作業を行い、作業後には周辺部に浮きが生じていないことを確認する。
はつり範囲は図面として「断面図」に赤字範囲とするが、劣化部が確認された場合は、状況に応じて範囲を広げる。
3. 鉄筋ケレン剥離工 (ケレン)
ワイヤブラシ等を用いて鉄筋表面の錆を落とす。
4. 鉄筋防錆処理工
錆落としを行った鉄筋表面に刷毛を用いて鉄筋防錆材を塗布する。
5. 断面修復工 (定着工法)
ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初形状に戻す。
※使用材料は監督員に確認の上決定する。
※1層あたりの施工厚さはモルタルの付着性、材料特性を考慮して設定する。(標準施工厚さ 20~30mm)
※鉄筋の背面に空層を残さないよう注意する。
※修復後の鉄筋腐食が少ない独立鉄筋等は、内側に折曲げて埋り込みを確保する。

上部工補修計画図(2)

[第一中津尾橋] S=1:20

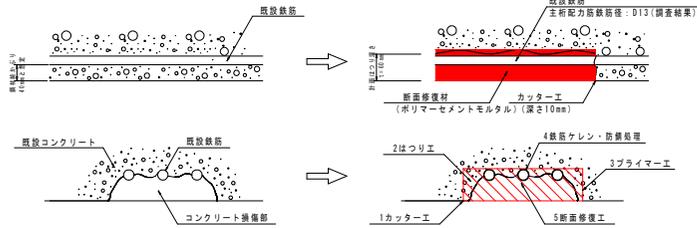


上流側



上流側

断面修復工 詳細図



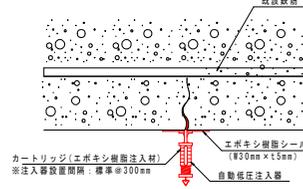
コンクリートはつり工
注)鉄筋位置において内側鉄筋腐食が確認された場合は、腐食鉄筋のケレン作業が確実に行える位置まではつりを行うこと。
※設計数量の算出は、頂版はつり調査結果を参照し鉄筋までの純かぶり40mm程度、配力筋鉄筋径をD13と想定して60mmで設定している。

補修数量表-1 (断面修復工)

上部工 (側壁)		
補修箇所	補修断面形状 (m)	補修断面積 (m ²)
D 1	0.10×0.10	0.010
D 2	0.40×1.30	0.520
D 3	0.15×0.90	0.135
D 4	0.30×0.30	0.090
断面修復工面積 A=0.755m ²		
断面修復工体積 W=0.045m ³		※断面修復厚60mmと設定

ひびわれ注入工 詳細図

※ひびわれ注入工対象幅は0.2mm以上0.4mm以下とする。



※側壁ひび割れ深さ (想定)
h=60mm: 鉄筋被り深さ参照
注入量Vは下式より算出する。
 $V=1200 \cdot b \cdot h \cdot L \cdot 1.15$
 $=1200 \times 0.15 \times 0.90 \times 0.06 \times 1.15$
 $=0.0928 \text{ m}^3$

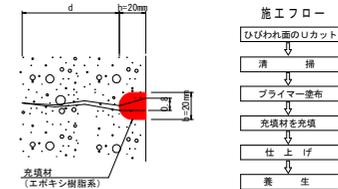
ここに、
V : 注入量 (kg)
1200 : エポキシ樹脂系注入材比重 (kg/m³)
h : ひびわれ深さ (60mmと想定)
b : ひびわれ幅 (mm)
L : ひびわれ延長 (m)
1.15 : ロス率

補修数量表-2 (ひびわれ注入工)

ひびわれ幅:0.20		ひびわれ幅:0.30		ひびわれ幅:0.40	
補修部位	番号 延長(m)	補修部位	番号 延長(m)	補修部位	番号 延長(m)
右岸側	HW1 0.45	右岸側	HW2 0.46	右岸側	HW11 1.85
	HW3 0.16		HW4 1.00		
	HW6 1.50		HW5 0.50		
	HW9 0.30		HW7 0.65		
左岸側	HW10 0.45	HW8 0.97			
合計	5箇所 2.86	合計	5箇所 3.58	合計	1箇所 1.85

ひび割れ充填工 詳細図

※ひび割れ充填工対象幅は0.5mm以上とする。



補修数量表-3 (ひびわれ充填工)

補修部位	幅d (mm)	延長L (m)	規格
HJ 1	0.80	2.30	エポキシ樹脂系
ひび割れ充填工延長 合計 L=2.30m			

プライマーおよび充填材の標準設計量は下表のとおりとする。

使用材料区分	標準設計量
プライマー	0.15kg/m ²
ポリマーセメント系	1800kg/m ³
エポキシ樹脂系	1700kg/m ³

【施工手順 (断面修復工)】

1. カッター工
深さ10mm程度の切込みを入れる。
2. はつり工
はつり作業は健全なコンクリートへの影響を避けるため、ピッケルなどで削るより鑿削機による作業を行い、作業後には周辺部に浮きが生じていないことを確認する。
はつり範囲は原則として「計画図」に示す範囲とするが、劣化部が確認された場合は、状況に応じて範囲を広げる。
3. 鉄筋ケレン・防錆工 (ケレン)
ワイヤーブラシ等を用いて鉄筋表面の錆を落とす。
4. 鉄筋防錆処理工
鑿削としを行った鉄筋表面に錆をういて鉄筋防錆材を塗布する。
5. 断面修復工 (左置工法)
ポリマーセメントモルタルをコシ塗りし、当初形状に戻す。
※使用材料は監督員に確認の上決定する。
※1層あたりの施工厚さはモルタルの付着性、材料特性を考慮して設定する。(標準施工厚さ: 20~30mm)
※鉄筋の両面に空気を残さないよう注意する。
※修復後の鉄筋被りが少ない継ぎ鉄筋等は、内側に折曲げて筋力減りを確保する。

当初図面

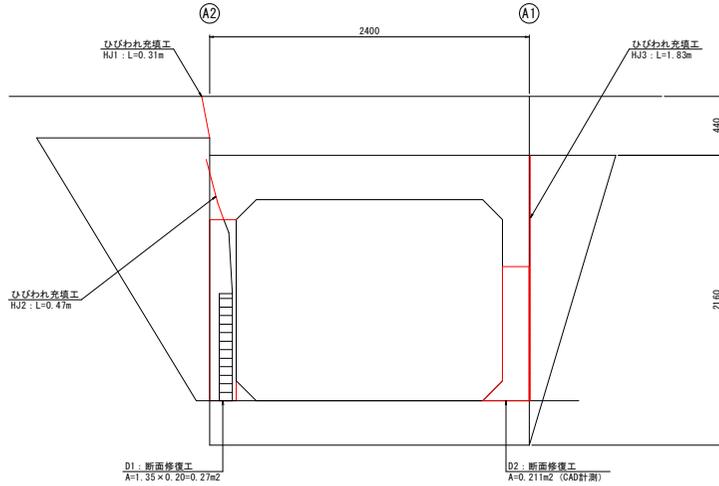
[第一中津尾橋]

工事名	R6百土 石井引田線 (第二南運橋他) 上板・炭谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)
路線名等	(主) 石井引田線
工事箇所	板野郡上板町炭谷 (第二南運橋他)
図面名	上部工補修計画図(2)
縮尺	S=1:20 図面番号 10 / 11
会社名	
事業者名	徳島県東部土木整備局 (吉野川庁舎)

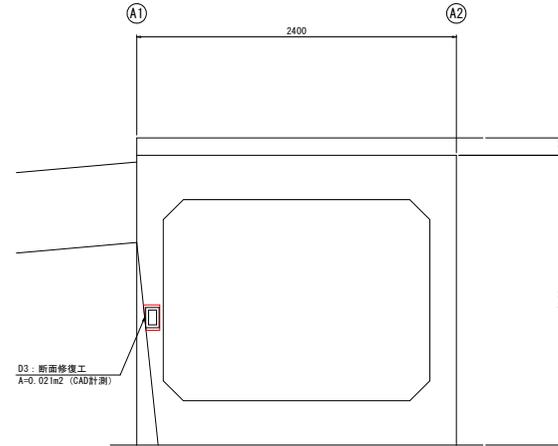
上部工補修計画図 (3)

〔第一中津尾橋〕 S=1:20

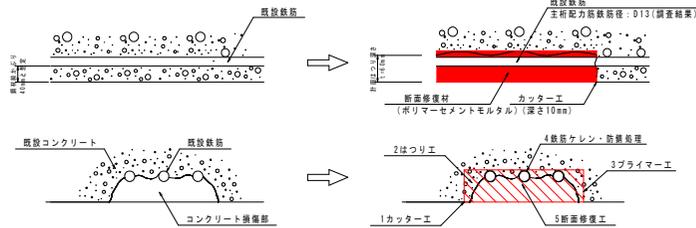
側面図 (上流側)
S=1:20



側面図 (下流側)
S=1:20



断面修復工 詳細図



コンクリートはつり工
注) 鉄筋位置において内部鉄筋腐食が確認された場合は、腐食鉄筋のケレン作業が確実に行える位置まではつりを行うこと。
※収容量の算定は、頂部はつり調査結果を参照し鉄筋までの純かぶり40mm程度、配力筋鉄筋径をD13と想定して60mmで設定している。

補修数量表-1 (断面修復工)

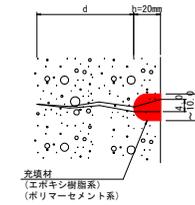
上部工 (谷口部・社口部)		
補修箇所	補修断面形状 (m)	補修断面積 (m ²)
D 1	1.35×0.20	0.270
D 2	CAD計測	0.211
D 3	CAD計測	0.021
断面修復工面積		A=0.502m ²
断面修復工体積		V=0.030m ³
※断面修復厚90mmと設定		

【施工手順 (断面修復工)】

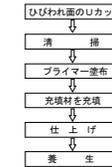
1. カッター工
深さ10mm程度の切込みを入れる。
2. はつり工
はつり作業は健全なコンクリートへの影響を避けるため、ピックハンマー等により慎重に作業を行い、作業後には周辺部に浮きが生じていないことを確認する。
はつり範囲は原則として「計測図」に示す範囲とするが、劣化部が確認された場合は、状況に応じて範囲を広げる。
3. 鉄筋ケレン・筋査工 (ケレン)
ワイヤーブラシ等を用いて鉄筋表面の錆を落とす。
4. 鉄筋防錆処理工
錆落としを行った鉄筋表面に剛毛を用いて鉄筋防錆材を塗布する。
5. 断面修復工 (左置工法)
ポリマーセメントモルタルをコテ塗りし、当初形状に戻す。
※使用材料は監理員に確認の上決定する。
※1層あたりの施工厚さはモルタルの特性、材料特性を考慮して設定する。(標準施工厚さ: 20~30mm)
※鉄筋の背面に空部を残さないよう注意する。
※修繕後の鉄筋筋力が少ない独立鉄筋等は、内側に折曲げて耐力筋力を確保する。

ひび割れ充填工 詳細図

※ひび割れ充填工対象幅は0.5mm以上とする。



施工フロー



補修数量表-2 (ひび割れ充填工)

補修部位	幅b (mm)	延長L (m)	規格
HJ 2	4.00	0.47	エポキシ樹脂系
ひび割れ充填工延長 合計 L=0.47m			

補修数量表-3 (ひび割れ充填工)

補修部位	幅b (mm)	延長L (m)	規格
HJ 1	10.00	0.31	ポリマーセメント系
HJ 3	5.00	1.83	ポリマーセメント系
ひび割れ充填工延長 合計 L=2.14m			

プライマーおよび充填材の標準設計量は下表のとおりとする。

使用材料区分	標準設計量
プライマー	0.15kg/m ²
ポリマーセメント系	1800kg/m ³
エポキシ樹脂系	1700kg/m ³

当初図面

〔第一中津尾橋〕

工事名	R6百土 石井引田線 (第二南運橋他) 上板・床谷 橋梁補修工事 (担い手確保型)		
路線名等	(主) 石井引田線		
工事箇所	板野郡上板町長谷 (第二南運橋他)		
図面名	上部工補修計画図 (3)		
縮尺	S=1:20	図面番号	11 / 11
会社名			
事業者名	徳島県東部県土整備局 (吉野川庁舎)		